

東日本大震災と福島第一原発事故からまる7年 今も7万3千人が避難生活

また3月11日がやって来ました。大震災と原発事故からまる7年です。この7年間は被災者や遺族の人達にとっては、長かったのか・短かったのか。私には分かりません。

人口減少・高齢化・過疎化は、全国の地方で起きている普遍的な問題

岩手県・宮城県の三陸沿岸や福島県の浜通りでは、人口減少・高齢化・過疎化が進んでいました。大震災や原発事故は、このような動きを、10年・20年早めたのかもしれない。大都市を除けば、人口減少・高齢化・過疎化は、これから全国のどこの地方でも起こる普遍的な問題なのです。

日本は世界有数の災害大国 日本の国土で安全な原発はあるのか！

この7年間でも、日本の各地で、地震・台風・水害・土砂災害・火山の噴火等の自然災害が起きました。仮設住宅に入った人の多くは「まさか自分が仮設住宅に入るとは、夢にも思わなかった」と言います。つまり、日本は世界有数の災害大国なのです。

南海トラフ地震（マグニチュード8～9）は、今後30年間で70～80%の確率で起こると予想されています。近くにある浜岡原発（静岡県）と伊方原発（愛媛県）の安全は、本当に大丈夫なのか。災害の防止をないがしろにして、日本中が東京五輪や大阪万博・カジノに明け暮れていていいのだろうか？

現在の復興は、本当に被災地や被災者のためになっているのだろうか！

大槌町・陸前高田市・南三陸町等の被害が大きかった地域では、復興事業として、土地区画整理事業が行われました。土地をかさ上げをして、換地をして、新しい街をつくる事業です。しかし、土地の約5割が、土地所有者が利用する予定がありません。つまり、空地のままなのです。住民の多くが帰還しない、これが7年経った被災地の実情なのです。働く場所が無い・病院が無い・商店が無い、地域の交通が無い。このような状況で7年経って、避難先で生活の再建をしようとしている避難者も多いです。

避難者の生業（なりわい）ができて、地域のコミュニティが復活して、神社や寺・伝統等が復興するためには、10年20年はかかります。被災者の心の復興は、なおさらまだまだです。

東日本大震災と福島第一原発事故による犠牲者と避難者数

	死 者	行方不明者	震災関連死	避難者
岩手県	4,674 人	1,116 人	464 人	8,539 人
宮城県	9,540 人	1,223 人	926 人	9,133 人
福島県	1,614 人	196 人	2,202 人	16,471 人
全 国	15,895 人	2,539 人	3,647 人	73,349 人
	3月1日現在		昨年9月30日現在	2月13日現在

【未だ嵩上げ工事や土地区画整理事業が進む内湾地区（気仙沼市）】



【復興のフロントランナー 活気ある駅前の商業施設—しかし地元の商店は少ない (女川町)】

